

9 家庭

学習指導要領における家庭科の目標

☆「空間軸」と「時間軸」

高等学校家庭科の学習指導要領における教科目標から読み取れるキーワードです。個人から地域・社会へと視野を拡げていくという「空間軸」の捉え方により、社会から求められる課題への対応が可能となります。また、過去から未来という「時間軸」の捉え方で次世代を担う役割を自覚し、生涯を見通したキャリア教育にも通じる考え方が可能となります。

☆他教科との連携

家庭科の学習内容は生活全般にわたるので、他の教科と関連する内容も多くあります。他教科と連携すると「内容が深まる」、「より理解しやすくなる」と感じたこともあるのではないのでしょうか。他教科と授業内容について情報交換し、より良い授業を考えてみましょう。



「共通教科 家庭」の目標は、「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」です。

家庭科の内容は、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、家庭生活全般にわたりますが、生徒たちは、授業を通して生活をより良くするための知識や技術を学びます。そして学習したことを、自分自身の生活で活用できるようになることが教科としての大事なねらいです。

ねらいを実現するためにも、いま話題になっている社会の問題などを取り入れた授業内容を工夫していくとよいでしょう。教師自身が新しい情報や流行などにも常に目を向けていくことが大切です。

家庭科における「見方・考え方」

平成28年12月の中央教育審議会の答申では、家族・家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を「協力・協働」、「健康・快適・安全」、「生活文化の継承・創造」、「持続可能な社会の構築等」の視点で捉え、より良い生活を営むために工夫することを、「生活の営みに係る見方・考え方」として整理することができます。とされています。様々な視点で生活を見つめていくことは、新たな気づきを得て、自分自身の生活を見直し改善していく機会となるでしょう。

「地域や社会とのかわり」を大切にしたい

生徒たちは、こちらが意識している以上に、教師の生活を見ています。教師自身が生活をより良くしようと工夫し、生活を楽しんでいる姿を生徒に見せたいものです。勤務校の地域やその周辺で営まれている産業や市民生活のルール・仕組みに関心を持つことで視野を広げてみてください（空間軸）。教師自身の生活は、より多面的、総合的となるはずですが、また、その地域の現在に至る過去を振り返るとともに、未来を見通すという視点も持ってください（時間軸）。

地域とのつながりを確認してみよう

授業の前に、地域の産業や公共施設等の活動内容を調べてみることで、学習内容は実感を伴ったものになります。また、教師自身が地域とのつながりを求める姿勢も授業を充実させるでしょう。

農業・漁業従事者、商店等

地域の特産品（野菜・果実・鮮魚等）の特徴や利用方法、ものづくりの技術等を学ぶことができる。「地産地消」、「郷土食」などの学習のヒントがつかめることもある。

各種金融機関

金融商品の仕組みや金利の変化等を知ること、家庭経済に関する学習に活用することができる。

市区町村の役所・役場

各市区町村の人口や高齢化率等の推移、ごみの回収・分別方法、介護保険料金等を具体的に知ることができ、社会福祉や環境等の学習に活用できる。

市区町村消費生活センター

全ての市区町村に設置されているわけではなく、設置の形態も市区町村により違いがあるので確認の必要がある。被害の近況や地域性が関連する消費生活状況等を具体的に確認することができる。消費生活の学習では、最寄りの消費生活センターの所在地も含めて活用方法も生徒に伝えたい。

市区町村社会福祉協議会

民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織。地域における社会福祉活動の実際を知ることができる。社会福祉の啓発活動等も積極的であるため、学校の学習活動に対しても様々なヒントをつかめることもある。

高齢者・乳幼児・児童等関連施設

高齢者施設として特別養護老人ホーム・デイサービスセンター等、乳幼児施設として保育所・子育て支援センター等、児童関連施設として放課後児童クラブ等がある。

地域包括支援センターを通して、障害者・高齢者・乳幼児・児童・障害者等の関連施設を紹介していただける場合もあるが、各施設に直接連絡を取ることもある。地域包括支援センターが地域独自の活動を先導している地域もある。

これらの施設によって、社会福祉、高齢者、保育等の学習が、生徒にとって身近なものとなるような工夫をしていきたい。

防災関連施設

神奈川総合防災センターでは防災情報の展示、地震等の体験コーナーの他に防災DVDやパネルの貸し出しを行っている。

神奈川県HP「かながわ学校における防災教育指導資料」なども参考になる。

授業づくりのヒント

毎日利用している最寄りの「スーパーマーケット」や「コンビニエンスストア」も、生きた教材が豊富です。

いつもは自分の生活に必要なものを素早く購入して出てきてしまうのですが、時には、高校生の気持ちになって店内を歩いたり、時間を掛けて商品棚の細部まで確認してみたりしてください。

役立つサイト例

・かながわブランド：

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6914/p22443.html>

・かながわの消費生活：

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100548/>

・かなテラス（かながわ男女共同参画センター）：

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f41205/>

・神奈川総合防災センター：

<http://www.pref.kanagawa.jp/doc/s/zn2/bousai-center/homepage.html>

・保健福祉局福祉部高齢福祉課：

<http://www.pref.kanagawa.jp/div/1393/>